



# 学校だより

令和5年6月30日

7月号

学校教育目標  
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



## 「小さなことの積み重ね」

校長 加藤 智敏

「一ヶ月に50キログラム、一年に1トン。この数字は学校で出る紙の量です。こんなに多くの紙が捨てられていて、私は大変驚きました。」

6年3組の松本 百永さんのスピーチが始まると、皆がその言葉に、その声に引き込まれていくのが分かりました。

南区のスピーチコンテストが6月22日に南公会堂で行われました。本校からは松本さんが学校代表として参加し、『生まれ変わる紙でみんなを笑顔に』のタイトルでスピーチを行いました。抜群の表現力で、見事、優秀賞を獲得することができました。

「すごいことじゃなくていいんです。私もクラスの中で少し疑問に感じたことから始めました。小さなことの積み重ねがクラス、学校、そして世界平和につながると思っています。」

松本さんはこのようにスピーチを結びました。校内では、各クラスで今年度の「なかま」の時間（生活科・総合的な学習の時間）が立ち上がり始めました。松本さんの今回のスピーチも4年生の時の「なかま」の時間がきっかけです。ふとした小さな疑問を皆で共有し、あたため、少しずつ解決していった経験が自分の想いとなって表現されていました。それは、その時を共有した友達、共に問いを解決していった仲間の想いでもあるでしょう。ぜひ、今年度も全学年、全クラスで、日枝っ子ならではの「なかま」の時間を創りあげて欲しいです。

4年生の大池、5年生の上郷、6年生の日光と各宿泊体験学習が終わりました。それぞれの学年が有意義な2日間を過ごすことができました。横浜には見られない日光の自然や世界遺産の歴史ある社寺に触れた6年生、観音崎の海岸や上郷の森の自然に浸り、横浜の街中と比べながら豊かな体験を行うことができた5年生、初めての宿泊体験で学年が一体となって様々なアクティビティに取り組むことができた4年生。私たち教職員はいつもこの体験学習の最中に、普段学校生活では見られない子どもの姿や表情を見ることができ、その関わりのよさや個々の育ちに喜びを感じます。今年度もグループでの活動や宿の部屋でのやりとりを通して、それぞれの強みや苦手とするところを互いに見とり、補完し合っていこうとする姿を見ることができました。子どもたちは着実に自分でできること、人のためにできることを増やしていました。

松本さんのスピーチにある「すごいことじゃなくていいんです。」「小さなことの積み重ねがクラス、学級、そして世界平和につながると思っています。」という言葉が私の胸に響いたのは、このように一步一步、歩を進める子どもたちの学びや育ちの姿、よりよい変容とつながったためです。子どもの成長は、まさに松本さんの言葉の通り、小さなことの積み重ねであります。私たち教職員も保護者の皆様、地域の皆様、そして、子どもたちのために学校に集う全ての皆様と今後も一緒に歩を重ね、子どもたちを支えていきたいと思えます。

暑い夏がやって参ります。夏季休業中は、地域の中で子どもたちが色々とお世話になることと思います。学校では、“日枝っ子友の会こーでいねーたー”の方々を中心に『夏休みイベント』も企画されております。ぜひ、参加いただき、日枝っ子のために我々大人もつながりを深めていけることを願っております。

今後とも変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。